

広報担当が取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。カシャ!!
 情報交流課 ☎0040 ✉koho@city.makinohara.lg.jp



貴重な品々をじっくり鑑賞する来場者

貴重な書院と品々を堪能

■第63期王位戦第5局の対局室と封じ手を同時公開

前年9月に行われた「お〜いお茶杯第63期王位戦七番勝負」第5局の際に対局室となった平田寺（大江区）の書院と封じ手が、3月18日、19日の2日間限定で同時公開されました。

封じ手とは、対局が持ち越される場合、翌日先に指す人が次の一手を紙に書き、封をしたもので、9月の対局では藤井聡太王位が封じました。通常非公開の書院には、封じ手のほか、藤井王位と豊島将之九段のサイン色紙などの貴重な品々が展示され、県内外から多くの人々が訪れました。

摘み取った新茶の香り楽しむ

■ハウス新茶の「お茶摘み体験」

3月17日、ティーファーム牧之原（菅山区）でハウス新茶の「お茶摘み体験」が行われました。

このイベントには、市内外から事前に申し込んだ26人が参加しました。会場となった4棟のビニールハウスでは、やぶきた種の露地と被せ茶の2種類が育てられています。

参加者は、ティーファーム牧之原の杉田素之代表の指導のもと、それぞれのお茶の香りや色味を楽しみながら、「1芯2葉」の新芽を慎重に摘み取りました。



杉田代表（中央）の説明を聞きながら新芽を摘む参加者

全国から集結した強豪が熱戦

■第16回春季全日本小学生男子ソフトボール大会

3月27日から28日にかけて、榛原総合運動公園「ぐりんぱる」で第16回春季全日本小学生男子ソフトボール大会が開催され、北は福島県から南は鹿児島県まで、日本全国から46チームが集結し、熱戦が繰り広げられました。

大会は、天候不順により日程や会場が変更され、準決勝・決勝を行うことができなくなったため、準決勝に進んだ4チームを優勝として幕を閉じました。会場のぐりんぱるは、選手や保護者、関係者らでにぎわい、熱気に包まれました。



熱戦を繰り広げる選手ら



第3回お茶はがきデザインコンテストの受賞者ら

新茶シーズンの訪れ祝い

■牧之原新茶まつり／お茶はがきデザインコンテスト

カタショー・ワンラボ（旧片浜小学校）で3月18日、牧之原新茶まつりが開催されました。会場内では、ハウス新茶の呈茶、手揉保存会による手揉み実演、お茶クイズなどが行われ、来場者は一足早く新茶シーズンの訪れを味わいました。

また、「第3回お茶はがきデザインコンテスト」授賞式も開催され、グランプリを受賞した田中香奈さんは、「今回の作品を通じて、牧之原茶の魅力が少しでも多くの人に伝わるとうれしい」と話しました。



橋本教育長（右）から表彰を受ける生徒

他の模範となる児童生徒を表彰

■市教育委員会表彰／山崎こども教育賞 表彰式

「市教育委員会表彰」と公益財団法人山崎こども教育振興財団主催の「山崎こども教育賞」の表彰式が3月11日、市史料館で行われました。

市教育委員会表彰では、各分野で県大会1位、または同等以上の成績があった19人、1団体が受賞。さらに、全国大会などで好成績を収めた3人には「少年少女ノーベル賞」が贈られました。

山崎こども教育賞では、あいさつや清掃など、日頃からの生活姿勢が他の児童生徒の模範であると評価された25人が受賞しました。

健康は笑いから！ 脳活も笑いから!?

■認知症予防講演会「笑いヨガ講座」

市総合健康福祉センターさざんかで3月12日、認知症予防講演会が開催され、事前に申し込んだ市民約100人が参加しました。

認定笑いヨガアンバサダーの山下直さんが講師となり行われた「笑いヨガ講座」では、「息を吸って吐くときに笑う」ことを基本に、さまざまなエクササイズを実施。会場は、外に響くほどの大きな笑い声に包まれました。また、講座の前後には、イーザイ株式会社の協力でタブレット端末による脳年齢チェックも行われました。



山下さん（右奥）の指示を受けて体を動かす参加者

キンダーブックの魅力を知って

■キンダーブックと昭和の子ども展

「キンダーブックと昭和の子ども展」が3月1日から30日まで、図書交流館いこっと受付カウンター前で開催されました。

この展示は、昭和2（1927）年に日本で初めての保育絵本として創刊された『キンダーブック』と戦後日本との関わりを振り返るものです。展示初日には静岡福祉大学地域連携推進センター専門官の進藤令子さんによる展示解説が行われたほか、3月11日には、昭和の童謡とともにキンダーブックを楽しむイベントも開催されました。



進藤さん（中央）の解説に聞き入る来場者



紙コップに入った幼虫を川に放流する園児ら

ホテルが飛び交う公園を目指して

■ゲンジボタルの幼虫放流体験

相良油田の里公園（菅山区）で3月9日、菅山保育園の年長児7人がゲンジボタルの幼虫の放流を体験しました。

これは「まきっぼの会」（大沢稔代表）が初めて開催したものです。大沢代表や同会メンバーから、ホテルの模型や紙芝居を使った説明を聞いた園児は、紙コップに入った2〜3センチほどの幼虫を公園内の川に放流しました。放流が終わると、園児は「元気に育ってね」「また見に来るからね」と幼虫に声をかけていました。

3月号16日まちのわだい「全国大会出場選手が市役所を表敬訪問」の記事で氏名の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。[誤] 増田悠祐さん → [正] 増田悠祐さん